

# 東北の味販売・パネル展も好評

今年の東北物産は、笹かまぼこ（高政・1000円）とさんまの昆布巻（女川町・800円）を販売。11月からチラシを撒いて予約をPRしたので例年を上回る売れ行きとなりました。現役生や卒業生、わ会員の協力で、当日売りも含め、かまぼこ330箱、昆布巻210箱を完売（総額は49万8000円）。純益は東北へのプレゼントと支援活動に充当します。商品引き換えを15・16日の2日間としたためロビーはかなり混雑しましたが、〈わ〉の関係者を動員して捌きました。「蒲鉾も昆布巻もおいしかったよ」。初日に賞味したという女性からは嬉しい感想が届きました。福祉振興協会もアイスクリーム100、布製の小物30、魚の燻製20を販売。いずれも好評でほぼ完売しました。

▼震災のパネル写真に見入る参加者



## 震災体験を伝える集いに参加

「阪神淡路大震災20年～震災の体験・教訓・学びを次世代に伝えるつどい」が1月10日午後、三宮の勤労会館で開催され、「ボランティアの果たす役割」をテーマにしたパネルディスカッションと震災を読みつなぐ会の朗読が行われました。パネラーはグループ〈わ〉の堺汎理事長や阪神大震災当時からボランティアに関わってきた活動家5人。堺理事長は「老年パワーを生かして、子供たちの心のケアを続けたい」と東北支援の大切さを訴えました。フロアでは〈わ〉など各団体の活動記録写真が展示され来場者の関心を集めていました。

### 仙台・東六郷小の児童ら来村

仙台市立東六郷小の児童ら10人が神戸歴訪の途次、1月17日の夕方、しあわせの村を訪れ一泊しました。同小とは東北支援を通じて交流があり、福祉振興協会とグループ〈わ〉の関係者20人が出迎え、宿泊館

## ご協力に感謝します

今回のシンポジウムは、グループ〈わ〉の東北プロジェクトチームを中心に、各理事・運営委員・区会・部会の総力をあげて取り組んだものです。8月には市民福祉振興協会にも共催を呼びかけ、講師の選定や1・17の市の行事への対応、物産販売などを共同で進めてきました。メインゲストとなる須田・女川町長にも早くからアプローチ、講演の内諾を得ました。10月にはプログラム内容を策定。11月に村内・学内にPRポスターを張り出すとともに、チラシ約4000枚を作成し市内各所に配布、PRに努めてきました。

会場設営・運営・物産販売などの実務は、プロジェクトチーム、〈わ〉の理事が手分けしてあたり大きなトラブルもなく終了しました。

入場者400人、物産売り上げ50万円という数字は、〈わ〉会員・カレッジ現役生らオールKSCが結集した賜物です。ご協力ありがとうございました。  
〈東北プロジェクトチーム〉



会議室で歓迎会を開きました。一行は6年生の児童4人、鈴木一彦校長ら引率6人の計10人。16日に神戸に到着。防災未来センターなどを見学し、17日は早朝の震災行事に出席した後、小学校などを訪れ夕方村へ。18日はUSJを見学し帰途につきました。写真＝本館ロビーで絆のオブジェ前に立つ東六郷小の4人

### 子供たちに学用品プレゼント

女川第一・第四保育所、名取の増田保育所、名取が丘児童センターの子供たちに、折り紙・色鉛筆・画用紙・ノートなどの学用品計70点を12月中旬に贈りました。毎年、子供たちが楽しみにしているもので、代金約2万円は東北物産の収益の一部を充てました。正月明けには名取が丘の子供たちから、かわいなお礼メッセージが届きました。

2・3面シンポ関係の写真は中屋好生、木村成男撮影